

# 農村と印旛沼の水害

2020年FW 18N1051 呉屋堯音

# 01 住むまちの周辺環境

調査対象 千葉県佐倉市



## 八幡神社



寛永3(1626)年創建  
一帯の林は地域で最も古い

## 西福寺

真言宗豊山派

詳しい創建年は文献が残っていないため不明  
30以上の墓石・石仏・板碑があり、最も古いものは  
寛政元(1789)年

## 天御中主神社

八幡神社と同じ寛永3(1626)年創建  
中世ここに千葉一族の居城(志津城)があったと  
伝えられている

地域住民からは妙間様と呼ばれている



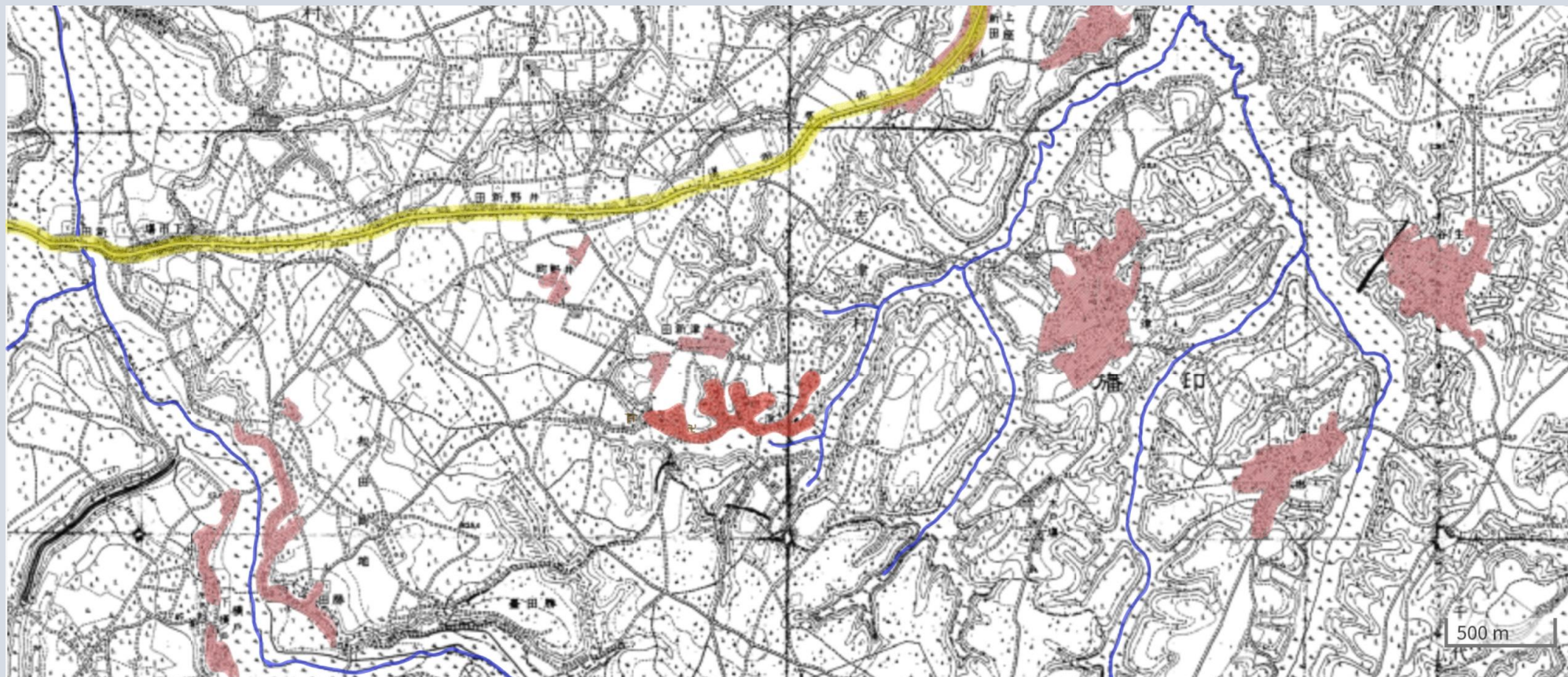
## 水路と清水台

水路は印旛沼に流れ込む手繰川水系の最上流部  
清水台はそこに流れ込む水が湧き出ている場所



## 02 宅地開発以前の様子

街道や城下町からは距離があり、水源に恵まれたのどかな農村集落



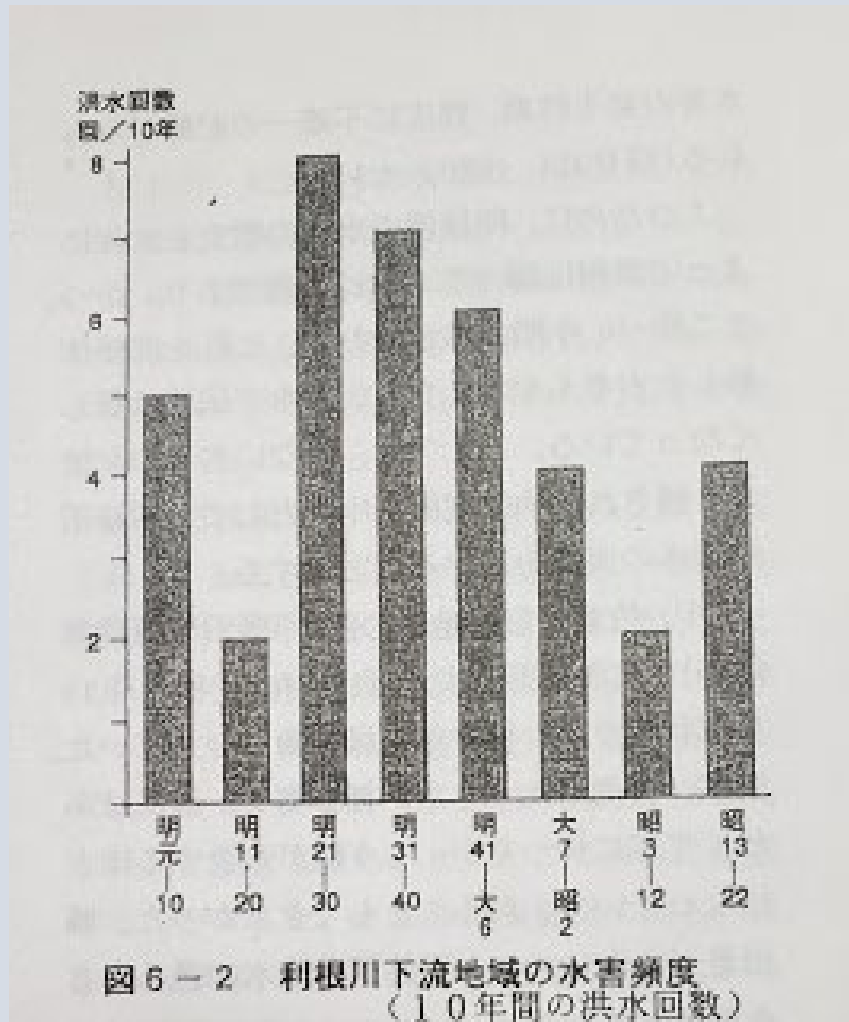
洪水が農民を悩ませていた

集落と湿地帯の分布図



湿地帯に沿った集落だった

### 03 江戸時代の洪水と治水事業



印旛沼の下流にあたる利根川からの逆流による洪水の被害が甚大

「印旛沼は利根川の胃袋のようなもので、利根川が出水すると、安食地先の長門口から“懸河飛瀑の猛威を鼓して沼内に濁流を逆流せしめ”て、利根川、印旛沼の水位が同じになるまで止まらない」

「平水位に復するには、利根川の水位が低下するまで待たねばならず、20日～1か月を要することが常であり、それだけ被害も甚大であった。」

『大いなる印旛沼～過去・現在・未来～』より

天明3(1783)年の浅間山の噴火による水害の悪化

「佐倉藩領の村々では二寸余の降灰があった。火山灰はしだいに利根川に運ばれて堆積し、そのために川底が上がって、洪水が起きやすい状態になっていた」

『図説印旛の歴史』より



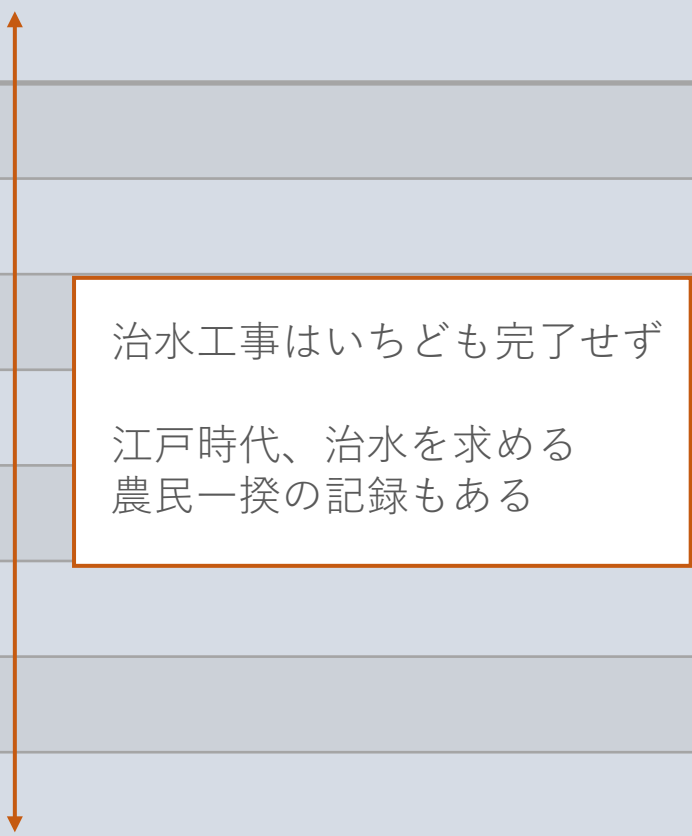
水域住民は家康の時代から60年ほどかけて行われた利根川の東遷事業が印旛沼の洪水を引き起こしたともっばら信じていた



印旛沼水域の治水工事を求める声が大きかった

## 印旛沼 治水計画一覧

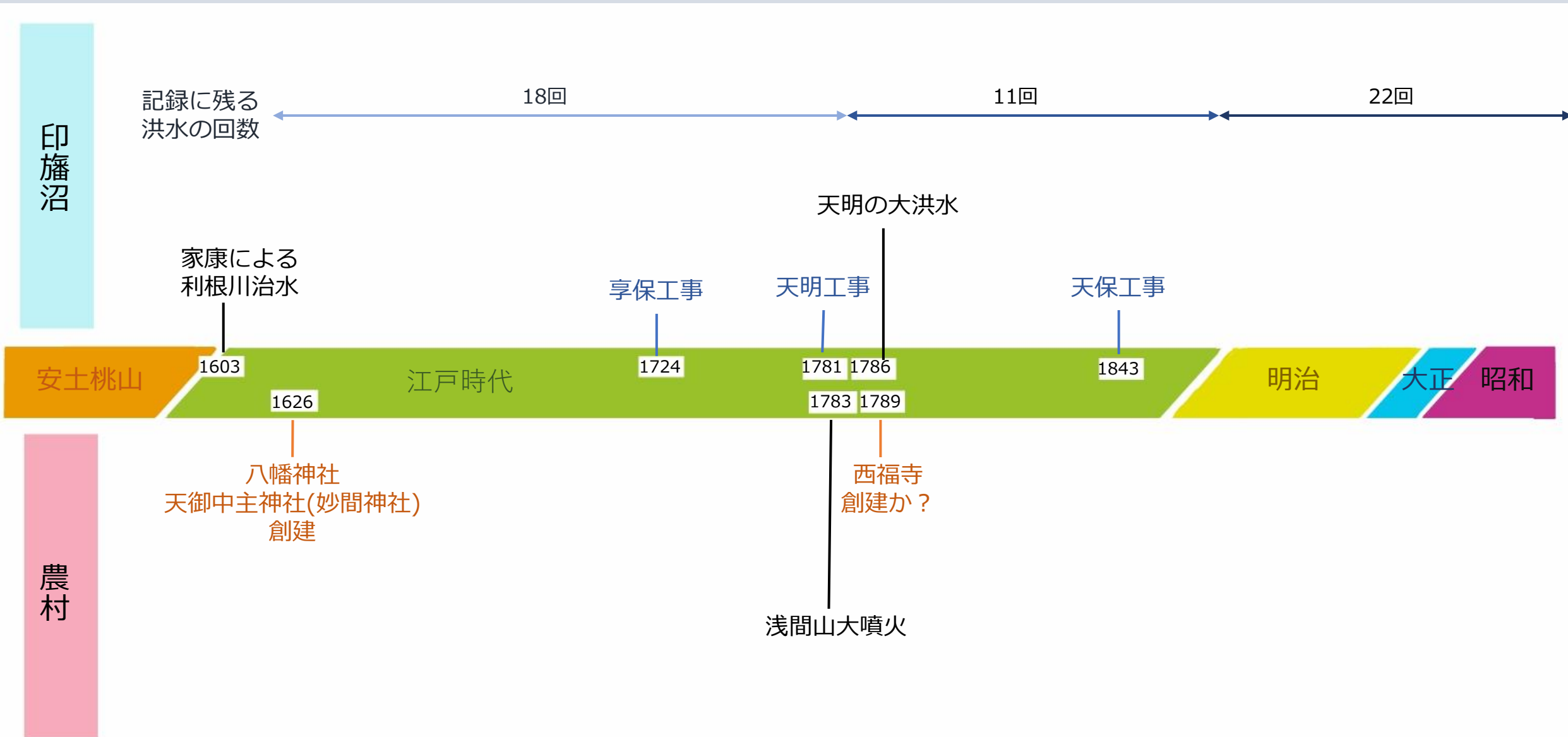
享保9(1724)	資金欠乏のため中止
安永9(1780)	着工せず
天明3(1783)	田沼意次罷免のため中止
天保14(1843)	水野忠邦罷免のため中止
明治3(1870)	着工せず
明治10(1877)	着工せず
明治35(1902)	日露戦争のため着工せず
大正10(1921)	着工せず
昭和16(1941)	太平洋戦争のため中止
昭和21(1946)	昭和44年完成



治水工事はいちども完了せず  
江戸時代、治水を求める  
農民一揆の記録もある



# 04 農村と印旛沼



- ・洪水被害が大きくなったのと同時期の西福寺の創建には地元住民の洪水を治めたいという思いが関係している可能性がある
- ・湿地に沿って集落が発達していることから、洪水被害に悩まされながらも豊富な水資源によって集落は栄えていたと考えられる
  - 複数の宗教施設を建立するに足るコミュニティが形成されていた

## 参考文献

---

『志津の史跡と名所』 宮武孝吉著 志津文庫

『印旛沼開発史』 栗原東洋著 印旛沼開発史刊行会

『大いなる印旛沼～過去・現在・未来～』 印旛沼環境基金

『生きている印旛沼～民族と自然～』 白鳥考治著 崙書房

『図説印旛の歴史』 大塚初重著 郷土出版社

『印旛沼周遊記』 小川元著 崙書房